

おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 20 号 (10 月 22 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権準々決勝 山中央に実力負け

10 月 12 日 (土)、13 日 (日) 高校サッカー選手権山形県予選の三回戦・準々決勝が行われました。三回戦の山東の相手は鶴岡工業。今期 Y1 所属だったものの、苦しい試合が続き、来期 Y2 に降格することとなったチーム。「勢いがある」という状態ではないでしょうが、悔しい思いをしてきた今期の総括として、選手権に気合が入っていることが予想される。実際、なかなか勝てなかったとはいえ、Y1 のレベルの高い試合を続けてきた経験値というのは何にも替え難い貴重なもの。しかも 3 年生はこれが最後の大会になる。

「相手はこれが最後、という気合でくる。でも考えてみれば、**ほとんどの山東の 2 年生にとってもこれが最後の選手権だ**」と、選手権の重要性を伝えて試合に臨ませました。

会場は酒田市の北港緑地公園。当日、台風接近の影響により、強風が吹き荒れる。鶴岡市と違い降雨がさほどでもなく、芝が固く締まっているのがせめてもの救い。清野会長、後藤報道局長は遠路はるばる、いつも通りいらっしゃる。そして、庄内ホームの鶴岡工業以上の数の保護者の皆様が、駆けつけて下さっている。後は選手が頑張るだけ。

前半風上のエンドを選んだ山東。入りは悪くない (良くもないが)。自称「疲労骨折」により、先週まで登録していなかった CDF アカガワサンが復帰し、はつらつプレーしている。ディフェンスの安定は締まった試合をする必須条件。鶴工の FW もスピードがあるものの、アカガワサンとタツルの CDF はスピードでも決して負けていない。また、前線のコウタとムントリのコンビネーションも良いし、第一ラウンドでは不調だったクリロンも復調の兆しが見える。センターラインの出来が悪くないので、ある程度落ち着いて試合を観ていられる。山東やや優勢か。しかし、決め手を欠いたまま前半中盤を迎えると、左からの CK を得る。「最近 CK にチャンスの匂いを感じる」とは後藤報道局長の見立て。確かに、Y2 最終節鶴東戦でも選手権一回戦寒河江戦でも、CK からチャンスをつかんでいる。でもですね～、他の場面で競り合いが強いつて訳でもないですからね～。ただ、**ここ 2、3 年くらいと比べると、CK での失点も減っているとは言える**。ここ 2、3 年くらいは、CK 等でボールサイドの選手がヘディングで競り合ったがボールに触れることができずそのままボールが流れる場面、すなわち「1 人目」ではなく、「2 人目」「3 人目」の選手のクリアが必要な場面で、心と体の準備を怠り、相手に先に合わせられ、失点するシーンが多かった。ということはこの新人チーム、簡単に言えば、集中力が高いということか。そして、選手権鶴工戦の左からの CK で、以上の記述通りの展開となる。左 CK からクリ

¹ 近年 3 年生で選手権まで残った選手はいません。体育系大学に進学する選手でも、学業を優先させて「引退」することが通例となっております。

ロンが矢のようなボールを蹴り出すと、ニアで飛び込んだのは**1年シャモジ。勇気あふれるダイビングヘッド取行!** ただし、ボールが強すぎて合わせきれず、ゴール中央までボールが流れていくと、待っていたのはこれまた**1年ボランチのタイチ。「一六文キック」** (古い!) のような体勢から見事に合わせて、山東先制。そして前半1対0で折り返す。

後半風下に立つかと思われましたが、風向きは気まぐれ。いきなり苦しくなった訳ではない印象あり。山東は低い位置からのビルドアップを放棄しロングボールに頼るが、ロングキックの精度があいまいなため、スペースにボールを落とし、スピードあるFWをしっかりと走らす訳でもない。前半以上にアバウトな攻撃に終始。局面局面でがんばってはいるものの、攻撃では見るべきところはない展開。対する鶴工は、風上に立ったのが逆に災いしたか、長いボールが伸びすぎてゴールラインを割ることが多い。後半中盤、2枚の鶴工DFのポジションが重なってしまい、ロングボールの処理でもたつきこぼれたボールを、**「漁夫の利」カッツが冷静に利き足と逆足で流し込み**、追加点を奪う。山東やや押し気味だったものの、「ゲームを支配している」などとは到底言えないどっちつかずの展開だったため、この追加点は大きい。その後、鶴工の攻撃をなんとか凌ぎ、2対0で山東勝利。部報前号で、選手権まで残った鶴南3年生のためにも鶴工戦勝利したい旨記しましたが、ホッと胸をなでおろしました。

翌13日、相手はやはり山形中央。選手権県予選のディフェンディング・チャンピオンにして、インターハイ県予選のチャンピオンでもある。紛れもない格上のチーム。そして、チャンピオンチームとの対戦だから可能な、小真木原総合運動公園の陸上競技場での試合。適度に刈り込まれたすばらしい天然芝ピッチ。今年はこの会場で選手権の決勝も行われる²。さて、天候は晴れ渡り、風はあるものの、前日の強風からすれば穏やかと言っていい³。試合が始まると、**ボールを保持し丁寧に試合を作ろうとする山形中央に対し、ボールを奪って素早く攻める山東といった、典型的な試合展開**。山東は中盤で奪ったボールから相手ゴールに迫るシーンもあり、まずまずの入りと思っておりました。が、10分過ぎ、山中央右サイドの選手が一度落としてからターンして加速し再び受ける「縦のワンツー」で山東DFを簡単にはがし、そのままゴールに迫りフィニッシュ。地を這うボールは鮮やかにネットを揺らし、山東早くも失点。このままずるずると行くかと思われましたが、**GK ケッツンの気迫のこもったフレー**もあり、前半はこのまま0対1。

前半の1点ビハインドは上出来と思っていたので、後半もこのまま焦れずに耐えていけばおもしろい、と思い後半に入る。開始間もなく、前線の選手が抜け出しGKと1対1となるシーンを作り出すなど、チャンスは作ったもののそれを逃す。すると、気持ち前掛かりになりすぎていたのでしょうか、CKから失点し、後半の入りの段階で0対2となる。これで劣勢のチームは苦しくなりました。そして、立て続けに3失点目を喫し、**実質的にゲームセット**。その後、山中央はボールを回し、安全運転の試合運び。その安全運転の隙をつき、交代で入ったカッツからパスを受けた**ムンタリが難しいシュートを決め、一**

² 例年、モンテのホームスタジアムでもあるNDソフトウェアスタジアムで決勝が行われておりましたが、スポンサーの意向で10月末の試合開催ができず、11月頭に決勝がずれ込んだ影響で、ND会場を使用することができませんでした。決勝は有料で開催されるため、囲いがあるピッチでないとい開催できない。そのため、小真木原が選ばれたわけです。

³ ただし、伝聞情報ですが、もう一つの準決勝会場の櫛引町ではものすごい強風が吹き荒れていたそうです。

矢報いるものの、結局 1 対 3 の敗戦。山形中央は、後方でのパス回しとそこからのビルドアップ、中盤と前線との緩急織り交ぜたパスワーク、前線の選手のキープ力、アウトサイドの選手の縦への迫力、いずれもあり、**格の違いを感じました。対する山東の選手、ディフェンスにおいて前方に「食いつく」ことはできても、寄せた相手がパスを選択した（先にはたいた）場合に、後方に戻ってその相手をしっかりマークすることができていない**⁴。または「食いつくふりしてはたかせて次を狙う」とか、「一瞬寄せずに慎重に対応するふりをしてからしっかり行く」などのディフェンスにおける緩急がなく、一本調子。**相手の前に出て先にボールを触る積極的なディフェンスは一番に狙わなければならないですが、それができなかった時の次善の策に難がありました。**攻守にわたって駆け引きが求められるトレーニング環境のあるなしが問われる戦いだったといえるでしょう。

ともかくも、チャンピオンチームと素晴らしい環境で戦えたということを今後の糧にしたいところです。二日間にわたり、遠くまで応援ありがとうございました。

いも煮会 元気に雨中決行

10月20日（日）雨の中でしたが、**山川元保護者会長の代から続く5年目の企画**。例年、選手権と県新人の合間に（選手権の敗北を受け県新人のため切り替えて激励する意味合いを込めて）保護者会の皆様が開催して下さる。もともと、この企画、「ホテルでの激励会もいいのですが、それよりもグラウンドでアットホームな中で激励して頂くのが良いのではないかと顧問今野がおねだりしたことから始まる。今野の趣旨は、【ホテルでスーツを着ての激励会ではなく、グラウンドでのいも煮会も味がありますよ】だったので、【ホテルの激励会はそれはそれで（選手権前に）やり、別に（県新人前に）いも煮会をやりましょう】と保護者の方が考えて下さり、5年前から実施され、現在まで続いている⁵。こんなにも激励して下さる方々に囲まれていることに選手諸君は感謝しなければいけない。そうした思いを込め、今年初めて、選手がいも煮を作り保護者の皆様に提供するという形で、いも煮会をやらせていただきました。残念ながら天候が悪く（2年連続！）、千歳橋下で行いました。

選手諸君はまず火を安定させるまで苦労している。いも煮を作る手際は、当たり前ですがお母様方に敵わない。「中学校まで作ってきているはずだけどな～（おかしいな～）」とは、某中学校にお勤めのD先生の発言。お父様がたは「いただきます」を待ち切れず、宴会開始（お母様方のお茶会はそれ以前に始まっておりました）。私も最初から体温まる

⁴ 一失点目がまさにそういう場合に当たります。

⁵ 長年顧問をやっていると、当初の話を知っている人がいなくなり、疑問を持たずに、「例年行っているから」の言葉で、行事をこなしてしまいます。いも煮会は一応こんな形で始まりました。

ちなみに、どこかで説明しようと思っていて近年できていなかったことを、せっかくだからこちらでさせていただきます。**部報の題名「おお大勝利」の由来について**。当初（平成18年度）、本校応援歌一番「おお勝利」の名をお借りして題名とし部報を発行していましたが、本校応援団の団報名が「おお勝利」でありました。応援団より同じ題はいかがなものかのご意見があり、応援団を小馬鹿にしたわけではありませんが、「大」の一文字を加え、「おお大勝利」という部報名へと変更し、それ以降続いております。

焼酎お湯割りをいただき、その後は熱燗・ワインと、ビールを一口も飲まない珍しい会となりました。食べるのが一段落したら、**選手全員参加の一発芸大会**。秋の激励会にて一発芸に対する意識の低さが露呈したので、**保護者の方に感謝する意味も込め、全員参加へと顧問が強制**。グレードの高低は残念ながら脇に措きますが、お母様方の温かい拍手で一応盛り上がったことにはなりました。誰からともなく声がかかった児玉さんの親子芸には期待が高まりましたが、披露はなく。来年に向けて芸を温めておくということのようでした。

選手の作ったいも煮・いも煮カレーは、予想以上に(!)とってもおいしかったです。
選手諸君、そして保護者会の皆様、ありがとうございました。